

平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・新潟県花き振興協議会（新潟県）

・協議会構成団体

新潟県花き球根振興協議会、
（株）新植（卸売市場）、（株）新花（卸売市場）、新潟県鉢花生産組合、
新潟県園芸商協会、新潟県グリーンサービス協会、
JA 全農新潟県本部、県内農協、花き生産者（約 20 名）
新潟県、食と花の世界フォーラム組織委員会

他

・主な取組

（1）園芸資材リサイクルシステムの検討・実証

① 取組内容

- ・ 使用済みのプラスチック鉢、園芸用土のリサイクルによる園芸資材の有効活用により花き消費の活性化につなげるため、園芸資材リサイクルシステムの検討・実証を行った。
- ・ リサイクルシステムの検討のため、当協議会の鉢花部会が中心となり、新潟大学農学部、A 社（リサイクル業者）、B 店（園芸店）、C 社（量販店）、食と花の世界フォーラム組織委員会の協力を得ながら検討会を立ち上げ、取り組みを進めた。
- ・ 新潟市内の園芸店・量販店の店頭で、消費者から使用済み園芸用土及びプラスチック製鉢を回収し、併せてアンケート調査を実施した。
期間 平成 27 年 3 月 7 日～22 日までの土曜・日曜 6 日間
場所 B 店、C 社（C-1 店、C-2 店、C-3 店）



検討会の様子



回収の様子（B 店）



回収の様子（C-3 店）

平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

②取組による成果、参加者の反応

○ 回収結果

m³

会場	B店	C-1店	C-2店	C-3店	合計
件数(件)	52	95	44	37	228
残土(m ³)	3.9	7	1.5	2.5	14.9
プラスチック(m ³)	2.9	11	3.4	7.5	24.8

kg

会場	B店	C-1店	C-2店	C-3店	合計
残土(kg)	1,300	2,090	640	1,150	5,180
プラスチック(kg)	130	230	160	220	740

○ 回収した園芸用土およびプラスチック鉢等の処理

[園芸用土]

- ・ ふるい分け処理後、園芸用土として再利用可能な土 10 m³を保管。
- ・ 平成 28 年 4 月の萬代橋チューリップフェスティバル(主催:新潟市)のプランター用土として使用するため、平成 27 年秋に配布予定。

[プラスチック鉢等]

- ・ 洗浄・破砕処理をし、廃棄物固形燃料または原料としてリサイクルを行った。

○ 消費者からの意見 (アンケートより抜粋)

- ・ 大変助かります。毎年春や秋(または定期的に)実施してもらいたい。
- ・ リサイクルして有効活用できるのは良いと思います。
- ・ 陶器の鉢、園芸用支柱なども回収してほしい。
- ・ 過去園芸用土の廃棄に難渋していました。継続しての催行をお願いします。
- ・ 鉢がたまる一方です。ぜひ定期的に回収をお願いします。
- ・ 支柱も回収をお願いします。
- ・ 私達のような庭を持たない者にはとても助かります。これから長く続けてください。

○ 問題点と考察

- ・ 当初、園芸用土の捨て場に困っている人が多く、その回収件数が多くなると予想されたが、回収時に行ったアンケートの結果、園芸用土の回収件数は全体の 3 割弱に留まり、回収量も想定を下回った。回収を行った 3 月が植え替えにはまだ少し早い時期であったためと思われる。

平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

- ・ 園芸用土は回収前の異物の除去を徹底して行う事で、残土扱いとなり、廃棄物とは見なされないが、プラスチック鉢等は、販売店舗による下取りの形をとらない場合、廃棄物と見なされ、回収に許可が必要となる。
- ・ 園芸用土は再利用するにあたり、成分の分析・調整や、植物の種子及び害虫等の駆除が必要である。
- ・ 再生園芸用土は成分が均一でなく、コストがかかるため、現状では、花き生産者による活用や園芸店での商品化・販売は難しい。

③今後の取組の予定

- ・ 今年度回収、振るい分けを行った園芸用土について、成分分析及び太陽光による殺菌を試行し、平成 28 年 4 月に開催予定の、萬代橋チューリップフェスティバルのプランター出品者へ配布を行う（平成 27 年秋を予定）。
- ・ 園芸用土の殺菌方法、その他の活用方法等について、検討を継続する。
- ・ B 店においては、引き続き園芸用土の回収を行う。



萬代橋チューリップフェスティバル

平成26年度国産花きイノベーション事業推進事業 実施事例

- ・富山フラワーネットワーク（富山県）
- ・協議会構成団体

富山県花き生産者協議会、富山県花き球根農業協同組合、全国農業協同組合連合会富山県本部、(株)富山中央花き園芸、富山県花き仲卸組合、富山花き商業協同組合、(一社)日本生花通信配達協会富山支部、富山県華道連合会、(公社)日本フラワーデザイナー協会富山県支部、(公財)花と緑の銀行、富山県

- ・主な取組

(1) 物流の効率化の検討・実証

①取組内容

小規模な個選生産者が主となる本県では、集荷便の整備や効率的に積載できる出荷箱が必要と考えられたことから、県内産地の物流状況（流通形態や箱サイズ等）を調査し、出荷用段ボール箱の統一規格について検討・実証を行った。

②取組による成果

従来の出荷箱よりも低価格な統一出荷箱を作成した。

③取組の予定

作成した統一出荷箱を活用し、市場の直接集荷や輸送時の品温管理による物流の効率化や品質向上に向けた実証を行う。



統一出荷箱の作成に係る物流実証調査（H26/8/26～27）

試作箱（湿式輸送：トルコギキョウ、乾式輸送：スプレー菊）を用いた県外市場への物流実証及び他産地における出荷箱の形状調査を実施

(2) 学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

幼児・児童から大人に対して、花と親しみ、育てる機会を提供するため、親子フラワーアレンジメント体験教室（計6回）、親子いけばな体験教室（計3回）、保育園児を対象にしたチューリップ球根植付け体験（計3回）を実施し、県産花きの認知度を高めるとともに、花育活動を推進した。

②取組による成果、参加者の反応

保育園児自らが保育園の花壇に植付けしたチューリップが開花した際、その花をいけばなに用いる等、体験をきっかけに花育活動の発展がみられた。

③取組の予定

富山フラワーネットワークを花育活動の受付窓口として、県内保育園・幼稚園・小学校を対象とした出張教室（いけばな体験教室、フラワーアレンジメント体験教室、チューリップ球根花苗植付け体験教室）を県内で広く実施し、アンケート等により参加者の反応を検証する。



親子フラワーアレンジメント体験教室（H26/10～H27/2）

「越中とやま食の王国フェスタ～秋の陣～」にあわせてブドウを使用したフラワーアレンジメント体験や、フラワーバレンタイン in TOYAMA でチューリップのブリザードフラワーを使ったアレンジメント体験（上写真）、花とみどり・ふれあいフェアでは県産チューリップ切り花を使用したアレンジメント体験教室も開催し、延べ262名が参加した。

親子いけばな体験教室（H27/1～3）

県産チューリップ切り花を使用したいけばな体験教室を開催し、延べ120名が参加した。



保育園児を対象にしたチューリップ球根植付け体験（H26/10～11）

砺波市、富山市、高岡市の3保育園で、県花であるチューリップの球根と県産花苗の植付け体験を実施し、延べ200名の保育園児が参加した。

(3) フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催

①取組内容

物日イベントや、ホテルを舞台にした県産花材装飾イベントの開催により、県産花きの認知度を高めるとともに、花贈りの提案により新たな需要の拡大を図った。

②取組による成果、参加者の反応

生産者、流通関係者、消費者団体が一堂に会し、イベントを企画、実施することで、関係団体間の連帯感が生まれた。また、来場者（特に、自分が描いた絵をもとにアレンジ作成をした子供）には、花きに興味をもつきっかけとなった。

③取組の予定

花き関係団体間の連携をさらに強化するとともに、イベント内容の充実を図る。

新たなイベントとして 100 人規模の公開体験教室を実施し、消費者やメディアへの訴求効果を図るとともに、県西部でのイベントも開催し、県内全域への波及と需要の喚起を図る。



2015 とやまフラワーフェスタⅠ・Ⅱ (H27/1/24、3/8)

○花迷路：県産花きを展示した迷路を企画。ポイントごとにバケットや花苗を置き、管理方法を生産者から聞きながらポイントを回ると花の寄せ植えが完成するもの（上右写真）。

○花と絵のコーナー：市内の園児・小学生が描いた絵をもとに県内小売店がフラワーアレンジメントを作成し、展示（上左写真）。

○花贈り作品展示：「愛妻の日」「誕生日」等に贈る花をテーマに県内小売店がフラワーアレンジメントを作成・提案等を実施し、延べ3,800名が来場した。



2015 とやまフラワーフェスタⅢ (H27/3/12～3/29)

ホテルを舞台にした県産花き装飾イベント。

新幹線開業に合わせ、富山市内ホテルのロビーを県産チューリップ切り花や県内生産者が品種開発したクリスマスローズで飾ることで県産花きを県内外のお客様にPRした。

平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・ 石川県花き振興地域協議会（石川県）

・ 協議会構成団体

県農林水産部、全農いしかわ、金沢総合花き(株)、(株)金沢花市場、
石川県花商事協同組合、金沢公設花き小売商組合、石川県生花小売商協同組合、
北陸園芸商組合、一般社団法人日本生花通信配達協会石川支部、
公益社団法人日本フラワーデザイナー協会石川県支部、石川県花き園芸協会

・ 主な取組

(1) フラワーコンテスト、花文化の展示会等の開催

①取組内容

・ 目的：新たな花きの需要を創出し、多くの消費者が花に親しんでもらえるよう、花き流通関係者や生産者が協力し、フラワーバレンタインを企画・運営し、花の消費拡大やフラワーバレンタインの普及に取り組む。

・ 実施時期：平成 27 年 1 月 19 日～2 月 13 日

・ 内容、対象者：1 月 19 日～2 月 13 日の間、金沢市公設花き地方卸売市場と(株)金沢花市場地方卸売市場の 2 つの市場内でのぼりを設置、社員のジャンパー着用など、フラワーバレンタインを流通関係者へ普及。2 月 8 日に金沢駅東広場で「フラワーバレンタイン金沢 2015」を開催し、カップル 8 組が男性から女性に花束を贈呈、来場者にバラ一輪を配布。

②取組による成果

流通関係者にフラワーバレンタインへの意識が高まり、バレンタインという新たな需要創出に積極的となった。

③今後の課題、取組の予定

アンケート調査によると、53%の男性が女性に花を贈ることは照れくさいと感じており、そうした意識を解消し、フラワーバレンタインには、男性から女性へ花を贈ることが普及していくよう、継続的な PR 活動や小売店を中心とした販売促進活動の強化に取り組んでいく。

また、金沢マラソンのビクトリーブーケ制作体験などを実施し、新たな花贈り文化の進展や花の消費拡大を図る。



フラワーバレンタイン金沢 2015

平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

(2) 学校・福祉施設等での花育体験推進

① 組内容

- ・ 目的：花や緑に触れる機会を増やすことで、幼児や児童の健全な成長を促すとともに花きへの関心を育む。
- ・ 内容：花育体験の実施にあたり計画の策定や実施校の選定、課題の検討等、検討会を開催し進捗状況を把握(4回)。
県内の幼稚園、小学校で花育体験を実施(4箇所 195人)。

② 取組による成果

- ・ 実施施設から「花に対する意識の醸成が図られた」とのアンケート結果が得られた。

③ 今後の取組の予定

- ・ 実施箇所数を増大させ、さらなる花きに対する意識の醸成、需要拡大を図る。



幼稚園での花育体験

平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

・ 福井県花き連絡協議会（福井県）

・ 協議会構成団体

県内各花き生産組織、(株)福井中央花卉市場、(株)花一（仲卸）、福井県花商協同組合（小売）、福井県華道協会、日本フラワーデザイナー協会福井県支部、ふくいの園芸福祉研究会、日本生花通信配達協会福井支部、フジテレビフラワーネット福井県支部、福井市、鯖江市、大野市、勝山市、坂井市、越前町、南越前町、県内 J A、福井県農林水産部、福井県経済連

・ 主な取組

(1) 県産花きを用いた生け花やフラワーアレンジメント作品の展示・PR

①取組内容

- ・平成 26 年 11 月 1～2 日、福井市にある県内有数のショッピングモール「エルパ」にて、県産花きを知ってもらい、将来的な消費拡大につなげるため、「福井の花フェア 2014」を開催した。
- ・1F スペースでは、福井の花の産地マップや県農業試験場のキク育種の実績などをパネル紹介するとともに、県産花きを用いた花の展示や、フラワーデザイナーによるパフォーマンスを行った。
- ・2F ホールでは花育として、いけ花やフラワーアレンジの体験教室を行った。

②取組による成果

- ・1F スペースでは 2 日間で延べ 2,000 人近い方に足を止めて頂いた。
- ・2F ホールの体験教室では延べ 270 人が参加した。
- ・これらの取り組みにより県内で作られている花きを知ってもらうとともに、多くの人に花に親しむきっかけ作りができたと思う。

③今後の取組の予定

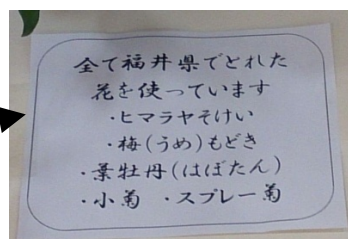
- ・来年度も同じような取り組みを行い、花きの消費拡大につなげていきたい。



福井の花マップと試験場取組紹介



フラワーアレンジ体験



福井県産花きを使った生け花